

福島県水稲オリジナル品種「天のつぶ」の栽培法

福島県農業センター 作物園芸部稲作科、会津地域研究所浜地域研究所

部門名 水稲－水稲－品種、収量構成要素、品質・食味

担当者 藤田智博・肥田野善隆・朽木靖之・鈴木幸雄・新妻和敏・江上宗信・濱名健雄

I 新技術の解説

1 要旨

本県オリジナル水稲品種「天のつぶ」は、栽培しやすく収量が安定している良質・良食味品種として平成22年度に水稲奨励品種として登録された。「天のつぶ」の品質目標を玄米タンパク質含有率6.4%以下(水分15%換算)で、検査等級が1等として、生育目標値を設定した栽培法を示した。

- (1) 栽植密度は、疎植(株間20cm程度)でも通常(株間16cm)と同程度の収量を確保することができる(図1)。
- (2) a当たり施肥窒素量は、基肥0.6kg、幼穂形成期に0.2kgにより安定した収量を確保し、玄米タンパク含量を6.4%以下にすることができる(図2)。
- (3)刈取適期は、青未熟粒が減少する出穂後積算気温1000℃から白未熟粒等の増加が少ない1200℃の範囲とする(図3)。
- (4) 種子の発芽揃いは、「ひとめぼれ」並み(図4)。
- (5) 「天のつぶ」の収量と品質が安定する栽培法について地帯別(会津、中通り、浜通り)の生育目標値を作成した(表1)。

2 期待される効果

- (1) 「天のつぶ」を安定した品質と収量を確保することが出来る。

3 適用範囲

県内平坦部(標高300m以下)

4 普及上の留意点

- (1) 施肥窒素量が多いと品質と食味が低下する。
- (2) 追肥は「天のつぶ」の生育目標値を参考にして実施する。
- (3) 収穫に当たっては必ず籾の黄化程度(籾の黄化率で9割程度)を確認して収穫適期を判断する。
- (4) 茎数と穂数は疎植栽培とした場合、生育目標値と異なるので注意する。
- (5) 種子の浸種期間は「ひとめぼれ」と同様に他の品種(積算水温100℃)より2日程度延長する。
- (6) 葉いもちの耐病性は「ひとめぼれ」並みにやや弱いので適正な病害虫防除を実施する。
- (7) 初期生育の分けつ不足は穂数不足となり収量減につながるため、健苗を育成し移植後の水管理を徹底する。

II 具体的データ等

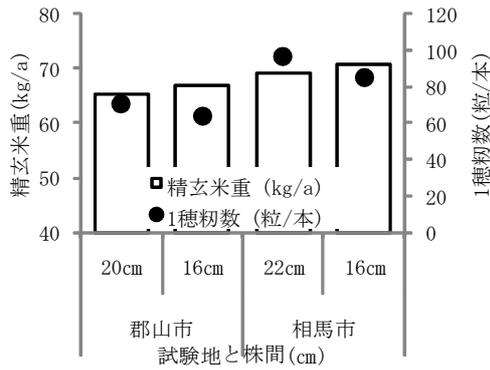


図1 株間と収量及び1穂粒数

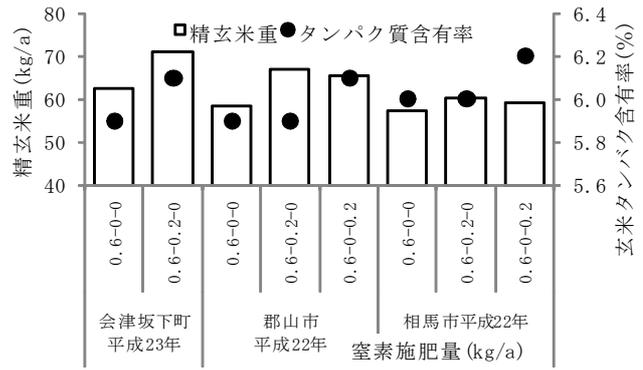


図2 施肥窒素量と収量及び玄米タンパク質

注) 玄米タンパク質含有率は水分率15%換算。

横軸は基肥-幼穂形成期-減数分裂期の窒素施肥量 (kg/a)

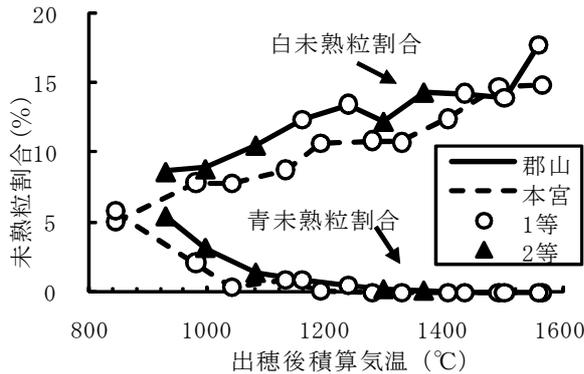


図3 積算温度と未熟粒割合 (郡山、本宮、平成22年)

注) 品質判定はサタケ社(RGQL1A)による。

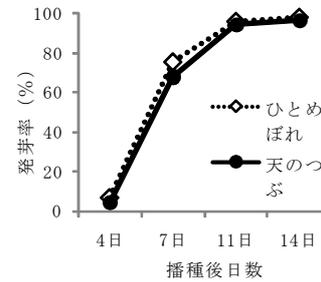


図4 品種別発芽率の推移

注) 育苗温度は25°C。

表1 「天のつぶ」生育目標値

平成24年1月作成

項目	目標値			
	会津	中通り	浜通り	
幼穂形成期	茎数 (本/m ²)	460~520	520~560	600~650
	葉色 (SPAD502値)	38~40	38~40	40
出穂期	止葉の葉色 (SPAD502値)	34以下	34以下	34以下
	収量 (kg/a)	65~70	60~63	60~63
	登熟歩合 (%)	87~90	85~90	85~90
成熟期・収穫期	検査等級 (等)	1等		
	玄米タンパク質含有率 (%)	6.4以下		
	穂数 (本/m ²)	420~470	450~480	400~450
	粒数 (万粒/m ²)	3.2~3.5	3.0~3.2	3.0~3.2

注) 幼穂形成期の目標は株間16cmで移植。玄米タンパク質含有率は水分15%換算。水稲有望系統における生育診断技術の確立及び奨励品種決定調査等の結果から。

III その他

1 執筆者

藤田智博

2 成果を得た課題名

(1) 研究期間 平成20~23年度

(2) 研究課題名 県産米の高品質化・良食味米生産のための栽培管理技術の確立(平成20~22年度、23年度)

3 主な参考文献・資料

(1) 平成11年~15年度、20年~23年度農業総合センター試験成績概要